

1. 令和5年12月21日の議員協議会における各議員の定数の考え方（総括表）

現行議員定数（18人）よりの削減数	削減後の議員定数	議員数	議員名
現状維持 人	18 人	3 人	深町直也、奥藤隆裕、田淵和彦
-3	15	1	安田 哲
-2	16	3	山野 崇、荒木友貴、中谷行夫
-1	17	10	西川浩司、井田佐登司、南條千鶴子、 榊 悠太、釣 昭彦、山田昌弘、 家入時治、前川弘文、瓢 敏雄、 前田尚志

2. 議員協議会における各議員の意見（令和5年12月21日）

氏名	議員定数	発言要旨
深町直也	現状維持	<ul style="list-style-type: none"> ・議員の出身地域を見ると、議員不在の地域が多数ある。議員定数を削減すれば、さらに不在地域が増える可能性が高くなり、市民の声が届きにくくなる。 ・3常任委員会で同数の議員を確保することや、類似自治体の議員定数と比較しても定数18名が適当である。 ・本市の財政状況から、議員定数削減よりも政務活動費や議員報酬の削減を検討すべきである。
奥藤隆裕	現状維持	<ul style="list-style-type: none"> ・議員アンケートでは、議員が多い方が多様な意見を取り入れることが可能ということで、議員定数30名と回答した。しかし、30名は現実的ではないと考え、現状の18名に変える。 ・昨年の議員定数の調査では、赤穂市の議員定数は類似自治体の平均よりやや少ない。従って議員定数を減らす理由は無いように思う。 ・同様の調査で、本市の議会費は、類似自治体に対しやや多いという結果が出ている。議会にかかる経費の削減については議論すべきである。 ・次回の選挙に向けては、定数は現状維持。経費については少なくとも議員一人分の経費を削減という方向で議論を行う。そして次回の選挙後に新しく当選した議員で、若い方や女性が議員になりやすい環境を目指す議論を行うことが理想と考える。
田淵和彦	現状維持	<ul style="list-style-type: none"> ・人口が同規模の市と比較すれば定数は現状でよいと思う。 ・将来の人口減少を考えて削減するなら、議員報酬の改定も含めて検討すべきと考える。特に、若い方が職を辞して議員として赤穂市のために頑張る頂くには、議員報酬だけで生活と子育てができる報酬を考えてもよいのではと思う。（議員は年金、退職金等がない） ・地元自治会で議員定数について話し合いを行った。定数減になれば人口の多い市の中心部に議員が偏り、周辺地域（市の西部、北部）で議員が不在になる地域がまた増えるのではと心配の声もあった。
安田 哲	15名	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、各常任委員会6名の3常任委員会で18名であるが、各常任委員会5名による3常任委員会とし、全体として3名減の15名でもってしても議会運営上支障がないと判断している。
山野 崇	16名	<ul style="list-style-type: none"> ・類似自治体の議員定数を調査した資料を見ると、現状維持でもよいと考えていた。ただ、本市の現状や市民の声から何もせず現状維持という選択肢はない。しかし、議会費の削減や審議の充実を図るなど市民の信頼を得ることにつながるような議会改革に取り組む議論がな

		<p>されていないことから、定数削減以外の選択肢はない。よって、採決や2 常任委員会制を考えると、定数は偶数にすべきと考え2 名減とすべきである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定数削減は、議会の多様性が失われ、行政に対抗できる力が弱まるだけでなく、新たな立候補者においてハードルが上がることなどデメリットの方が多い。
荒木友貴	16名	<ul style="list-style-type: none"> ・議会費全体のあり方も見直していく必要がある。 ・将来的な人口減少に備え、質の高い議会運営を行うためには、議会の調査や立案機能の強化、議会事務局体制の拡充が必要である。 ・市民に開かれた議会やデジタル化への対応、広報内容の検討、市民意見を公募する機会の拡充など課題がある。 ・私の考えでは議会費において、年間約2,000万円程度あれば集中的に改革ができるのではと考え、その予算がおよそ議員2名分の報酬等にあたる。 ・2名減で捻出できた予算は、議員報酬のアップに使うのではなく議会運営の強化にまわし、議員が活躍できる機会の確保や議員の出身地域に関わりなく、意見をくみ取れる仕組みづくりに使うことを意図している。 ・議員報酬アップと引き換えに2名減らすことは、議会や議員の質自体を担保できるとは思わない。報酬アップを今行うのではなく、将来的な議会のあり方を考え、そちらに予算を集中投資することが必要である。そうすることにより、一時的には、議員定数は削減となり、報酬も上がらないが、市民の理解が深まることにより将来的に増額することも可能ではないか。新陳代謝を生むことができるのではないか。
中谷行夫	16名	<ul style="list-style-type: none"> ・本市の人口や常任委員会構成等においても現在の定数18名は適当であると思うが、本市は危機的な財政難である。 ・定数削減した場合、行政のチェック機能の低下や市民の声が市政に反映し難くなる。 ・副業や地域活動において、市民の声を聞くこともできるが、この時間は議会活動の余裕時間であると考え。この時間を議会に使うことで、定数削減のデメリットは解消できる。 ・財政難や議会に対する市民感情を考慮すれば2名減を検討すべきである。
西川浩司	17名	<ul style="list-style-type: none"> ・全国の類似自治体の議員定数を調査・研究し、比較・検討した結果を踏まえ現状維持が妥当と感じている。 ・人口減少で4万人に近づくと16名の考えである。

		<ul style="list-style-type: none"> ・住民・団体等意見交換会や特別職報酬等審議会の意見を重く感じている。 ・本市は課題が山積している状況もあり、将来的な人口減少を見据え、段階的に定数を減らすことも考えられるため、1名減の17名が適当である。
井田 佐登司	17名	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少の中、定数18名では多いという市民の声を聞き17名がよい。 ・全国の類似自治体の議員定数から見て18名は若干多い。 ・議会の仕事は市全体を見ていくことである。定数削減となると隔々まで見るのが難しくなるが、改善等を行い活動すれば問題ない。
南条 千鶴子	17名	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少や少子高齢化、本市の財政状況も厳しいことから定数削減が望ましい。 ・定数2名減ではなく1名減することについては、近隣市や類似自治体と比較して定数18名は多い人数ではない。 ・特別職報酬等審議会の答申や住民・団体等意見交換会の意見を真摯に受け止めなければならない。 ・定数が減ると少数派の民意を丁寧に聞き取りにくくなる可能性がある。 ・定数削減となると若い方が新たに立候補する可能性が低くなると考える。 ・議会活性化や議員力のアップにしっかり取り組み、多様な市民の声をしっかり受け止めるためにも、また立候補者を減らさないためにも1名減と判断した。
榊 悠太	17名	<ul style="list-style-type: none"> ・人口規模が同程度の自治体との比較では、18名は適正な議員定数である。 ・住民・団体等意見交換会や特別職報酬等審議会の意見を見る限り、市民の声は定数減であり、これを重く受け止め1名減とする。 ・人口規模と定数との関係を考えて、定数削減の時期は少し早い気がするが、市民の声と今後の人口減少を勘案しての結論である。
釣 昭彦	17名	<ul style="list-style-type: none"> ・類似自治体の人口比や報酬等を比較して現状維持の18名が妥当と思っていた。 ・平成21年に議員定数を4名減の20名とし、平成25年に2名減の18名と減らし続け、議員定数削減に関わってきた。当時と比べて財政状況も悪いが、議員を減らすことは良いと思わない。 ・地域によっては出身議員がゼロのところがある一方で、出身議員が3名の地域もあり、均等を図るには18名と考えるが、17名とする。

山田昌弘	17名	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年の議員定数の調査では、財政規模、人口規模からいけば18名でも妥当と考えていたが、いろんな方々の意見や市の財政状況を考えて、どこかで削減していかなければと思う。 ・住民・団体等意見交換会の意見等を考えると1名減と思っている。 ・財政状況や市民の立場を考えた場合、1名減は必要である。
家入時治	17名	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の議員定数18名を決めた時、全国の人口4万から6万人の類似自治体の平均が18.3人で、その時の本市の人口が5万人くらいであり、20人から18人にすれば4万人を切るぐらいまで18名でいけるのではと考えていた。 ・住民・団体等意見交換会や市民の声からすると、議員定数は減らしてほしいと言われており、何を基準に考えるかとなると、人口減少の進展の具合が一つである。 ・人口減少の進展からすると、議員定数を減らさざるを得ないことから1名減の17名である。 ・最近、選挙にならず無投票当選という議会が増えてきており、私の推測であるが本市でも18名では選挙にならない可能性もでてくるのではと考え、1名減の17名が妥当と思う。
前川弘文	17名	<ul style="list-style-type: none"> ・議員定数に関しては方程式があるわけではなく、類似自治体との相対的判断の傾向がある。 ・令和元年10月の赤穂市自治会連合会からの要望書を尊重し、次回の選挙から議員定数17名、次々回の選挙から16名とし、その後当分の間、16名以下としないことで考えている。
瓢敏雄	17名	<ul style="list-style-type: none"> ・議員定数を18名に削減した時の人口と比べると、2名削減が適当かもしれない。 ・特別職報酬等審議会の答申書の付帯意見にあるように、報酬をアップする分に見合う削減をと言われており、18名を16名にすることは、議会運営面での心配も考えられるため、許されるなら1名減の17名でいきたい。
前田尚志	17名	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少が続く本市の現状や全国の類似自治体の現状、近隣市の状況、市民の声などから判断し、今回は、1名減の17名とするのが望ましい。 ・今後も人口減少がさらに進めば、議員定数を再度検討すべきである。